農家は……ると、……いるこ……スタな……ッコリ……

小さなツ……

……続けている。

今年は８月末に畑へ苗を定植した。夏以降、暑い日が続いたことで水やりや施肥などの栽培管理は大変だったというが、直径15ｾﾝﾁほど、高さ20ｾﾝﾁ弱と例年……

出荷はクリスマスに合わせて20日ごろ始まり、来年２月いっぱい続く見通し。原尾さんは「スーパーなどで見かけたら、ぜひ手に取って、旬の味に触れてほしい」と呼びかけている。

中高生が一日税務署長

観音寺、作文入賞の３人

国税庁などが募集した「中学生の『税についての作文』」で香川県知事賞を受賞した観音寺中部中３年の篠原萌生さん(15)、「税に関する高校生の作文」で高松国税局長賞を受賞した観音寺一高２年の篠原芽衣さん(16)と高瀬高２年の細川陽江さん(17)が、観音寺市坂本町の観音寺税務署で一日税務署長を務めた。「税を考える週間」(11月11～17日)に合わせて同税務署が企画。３人は同17日に奈良寄克也署長から一日税務署長の委嘱状を受け取り、署長訓示として受賞した作文を職員たちの前で朗読した。

一日税務署長を務めた(左から)篠原萌生さん、篠原芽衣さん、細川さん＝観音寺市坂本町、観音寺税務署

篠原萌生さんは、自分の医療費がかからないことを疑問に思って税について調べ、生活や教育、安全のために税金が広く使われていることを知った。「増税は免れない。税金をどうしていくのかは私たちの世代が解決していかなくてはならない」とし、小学校で税の授業をもっと取り入れることを提案した。

篠原芽衣さんは、なぜ日本では消費税への不満が大きいのかについて考えた。消費税率25％ながら国民の幸福度が高いデンマークに比べ、「使い道の不透明感が原因ではないか」と指摘。「国が積極的に税の用途を知る機会をつくり、国民は税について理解し、根本の原因を解決しようと図ることが大切」とつづった。

細川さんは、病気で入院した体験を基に「充実した医療を少ない負担で受けることができたのは、誰かが出してくれている貴重な税金のおかげ」と感謝。「納税者一人一人が正しく税金を納めることが必要不可欠とした上で、社会に貢献するために税を納めて責任と義務を果たす大人になりたいとの決意を記した。

第6365回ナンバーズ（18日）【ナンバーズ３】 第1854回ロト６（18日）

……手の指などの細部は、小さなはけで丁寧に汚れを落とした。

長谷川執行は「弘法大師空海御誕生１２５０年に当たる今年は、特にたくさんの人にお参りいただいた。来年も多くの人に来ていただけたら」と話した。

同寺では元日午前０時から、新年最初の法要「修正会」を営むほか、空海の誕生１２５１年にちなみ年明けうどん１２５１食が振る舞われる。

薬師如来坐像のほこりを落とす僧侶ら＝善通寺市、総本山善通寺

岸さん（善通寺一高）一日税務署長

丸亀、税の作文入賞で

本年度の「税に関する高校生の作文」で高松国税局長賞を受賞した善通寺一高２年の岸姫由さん(16)＝多度津町＝が、管轄の丸亀税務署で一日署長を務めた。作文で自分たちの暮らしを支えている税の重要性を訴えた岸さんは「同世代にも税金の大切さを伝えたい」と意欲を示した。

同作文には全国17万４００８点の応募があり、高松国税局管内では７９２７点の中から、最高賞の国税庁長官賞に１点、高松国税局長賞に５点を選んだ。入賞者の一日署長は11月11～17日の「税を考える週間」に合わせた啓発行事で、丸亀署では同13日に初めて実施した。

賞状を手に笑みを浮かべる岸さん＝丸亀市大手町、丸亀税務署

丸亀市大手町の同署で表彰式と一日署長委嘱式があり、村上公昭署長から一日署長のたすきを受け取った岸さんは「意外と知らない身近な税金」と題した受賞作を読み上げて同署職員へ〝訓示〟した。

受賞作ではアトピー性皮膚炎で０歳から通院治療中で高額な医療費が必要となる中、本年度から子ども医療費助成制度の対象年齢が18歳に引き上げられ、自己負担がなくなった点などを例に挙げ、「私たちが支払っている税は自分自身にも還元され、世の中のどこかで誰かの役に立ち、社会が発展し、生活を豊かにしている」などとつづった。